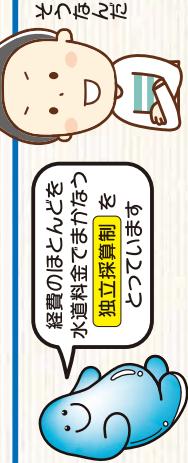


1 水道料金はどのように考え方で決められているの？

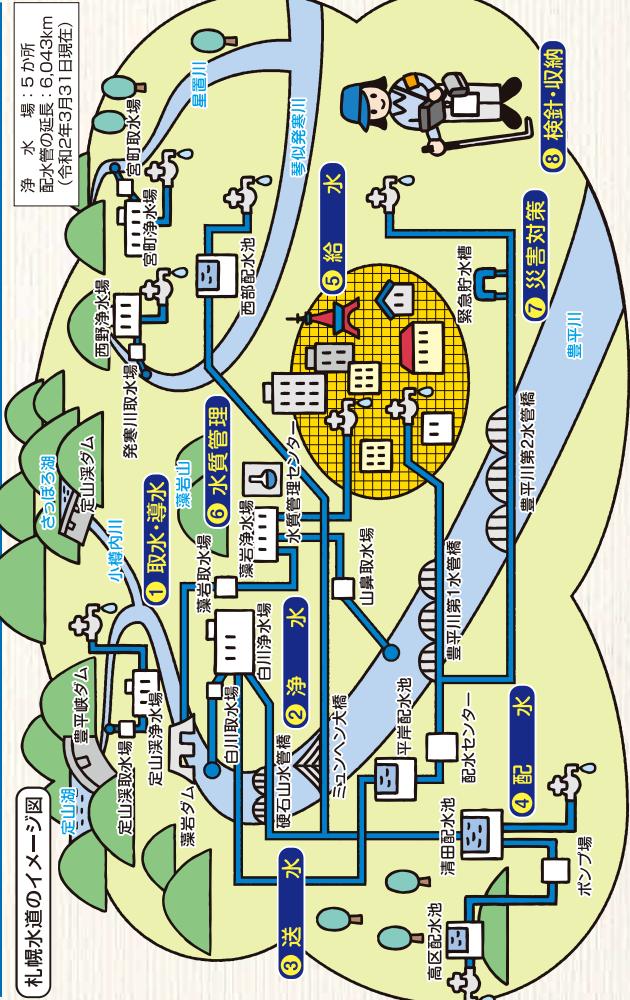
安全な水を安定してお届けするためには、さまざまな経費がかかります

水道事業は「水道料金」で運営されています



札幌の水道事業は、札幌市が運営しています。
水道事業の運営に必要な経費の大半は、「税金」ではなく、利用者の皆さまにお支払いいただいている「水道料金」によってまかなわれています。

皆さまのもとへ水をお届けするためには、多くの工事が必要です



- 水道料金の構成
- ① 取水料：約3億円(100%)
 - ② 淨水料：約10億円(38%)
 - ③ 送水料：約12億円(3%)
 - ④ 配水料：約3億円(9%)
 - ⑤ 給水料：約14億円(4%)
 - ⑥ 水質管理料：約3億円(9%)
 - ⑦ 災害対策料：約1億円(3%)
 - ⑧ 檜針・収納料：約1億円(3%)
 - ⑨ 費用：約3億円(9%)
 - ⑩ 管理料：約3億円(9%)
 - ⑪ その他：約11億円(3%)

水道事業を運営するためには、取水から給水までにかかる経費や、メーターの検針や料金の収納にかかる経費など、さまざまなお経費がかかります。そのほか、施設を整備するために借りた借入金の利息の支払い(支払利息)や、年月の経過による施設の価値の減少(減価償却費)といった経費もかかります。

必要な経費をまかなえるように水道料金は設定されています

水道料金は、上記のようなさまざまな経費をまかなえるようになります。

水道料金の内訳

※このほかに元利の返済も行っています。

借入金の支払利息
14億円(4%)※

事業全般にかかる
一般管理費20億円(6%)

検針・収納に
かかる経費(12%)

事業全般にかかる
減価償却費など
(38%)

取水から給水までに
かかる経費(37%)

その他11億円(3%)

340億円
(100%)

127億円

39億円

129億円

14億円(4%)※

参考

札幌市水道局のこれまでの取組

● 経営の効率化

事務事業のあり方を見直し、メーターの検針や漏水調査などの業務の委託化や、料金センター・配水管理事務所の庁舎を集約するなど、経営の効率化を進め、適切な人員配置を行ってきました。



この結果、ピーク時と比較すると令和元年度末では、職員数302人(約33%)、職員給与費約35億円(約47%)削減しました。

● 財務基盤の強化

将来にわたりて健全経営を続けていくため、新たな借り入れを抑えて、借入金残高を減らす取組を進めています。この結果、平成12年度のピーク時には2,013億円あった借入金残高は、令和元年度では648億円まで減少(約68%減少)しています。(12ページ「長期的な視点で事業運営に取り組んでいきます」をあわせてご覧ください。)



2